

映画 × トーク

COLLABORATION

「東日本大震災から7年——いま、コミュニティのかたちを見つめる」

わたしたちが大きな災害に襲われたとき、人と家族が再生の拠り所としたのはコミュニティでした。

復興まちづくりに求められたのもコミュニティの在り方でした。

東日本大震災から7周年をまえに、「住民主体のまちづくり」を実践する専門家と、石巻出身の作家の参加を得て、被災後の暮らしとコミュニティのかたち、そして、その新たな展開を考えます。

開催日：2018年3月5日(月)

会場：なかのZERO視聴覚ホール

まだ見ぬまちへ

石巻・小さなコミュニティの物語

監督：青池憲司

佐藤 滋

早稲田大学大学院教授、阪神大震災直後、神戸市長田区野田北部・鷹取地区に入り、1年半、研究室として常駐。この経験を生かして、東京の事前復興まちづくり、中越地震えんま通りの復興まちづくり、福島県浪江町の町民との復興に関わる。著書に、「まちづくり教書」「まちづくり図解」(ともに鹿島出版)など。

大島幹雄

石巻生れ。作家。ノンフィクション作品多数。震災前から地元の人たちと「石巻若宮丸漂流民の会」を作り事務局長を務める。震災後に、若宮丸の遭難と漂着先のロシアでの生活、11年後の帰還を題材に小説「我にナジェージュダあり」を執筆。その後、石巻圏の過去・現在・未来をつなぐ地域誌『石巻学』を創刊。

第1回 開場/13:30 上映/14:00~16:30

トーク/16:40~17:30

「人の暮らしとコミュニティのかたち」(佐藤滋+大島幹雄+青池憲司)

第2回 開場/18:00 上映/18:15~20:45

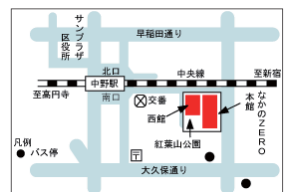
トーク/20:50~21:30

「災害で現われるコミュニティの力」(佐藤滋+青池憲司)

なかのZERO視聴覚ホール

〒164-0001 東京都中野区中野2-9-7
TEL.03-5340-5000
中央線中野南口徒歩8分

【料金】 一般:1,500円
学生:1,000円
高校生以下:500円



被災直後から寄り合って暮らしはじめた人びとが、失われた地に「新しいコミュニティ」をつくりだすプロセスを見つめる。



この映画は、地震と津波で壊滅的な被害を受けた、宮城県石巻市門脇・南浜・雲雀野地区の「人とコミュニティの再生」を6年半にわたって記録した作品です。

映画は人びとの、コミュニティづくりのプロセスを見つめます。居住環境が整わない地域の暮らしをどう生きるか？ 高齢者のケアは？ 新しい住民とのコミュニケーションは？ かたちが見えてきたまちへの期待と不安？

映画は、3月11日以前の地域の姿も見つめます。震災前のこのまちにはどんな暮らしがあったのか。住民が紡ぐ“わがまち”の記憶。

本作品は、一被災地の非常時のコミュニティ活動の記録であるとともに、そのテーマは、ふだんの地域社会づくりに通じる普遍性をもっています。

門脇町・南浜町・雲雀野町について

東日本大震災以前の3町は、住宅、商店、小学校、保育所、事業所、病院などが混在するエリアでした。世帯数1772、人口4423人。津波で356人が亡くなり、142人が行方不明です。家屋の大破をまぬがれたのは10世帯のみ。門脇町2丁目～5丁目は土地区画整理事業で「新門脇地区」になります。事業面積23.7ヘクタールの区域に250戸分の宅地が整備され、復興公営住宅151戸と合わせて401世帯、人口1070人が想定されています。南浜町と雲雀野町は居住不可地区となり「石巻南浜津波復興祈念公園」が造られます。地区の東西を走る八間道路は幅37.5m、高さ3.5mの高盛土道路になり、その北側が新門脇地区、南側が復興祈念公園です。



『まだ見ぬまちへ～石巻・小さなコミュニティの物語～』

(上映時間2時間25分 Blu-ray/DVD)

製作：映画「まだ見ぬまちへ」の会／青池組
編集／構成＝村本勝 撮影＝一之瀬正史
整音／録音＝黄永昌 音楽＝原公一郎
撮影／録音＝山田武典 広報＝金原雅彦
語り＝黒田福美 監督／製作＝青池憲司

E-mail: kinoakcitta@gmail.com

公式サイト: <http://aoikegumi.shinsaihatu.com/>

Facebook: <http://www.facebook.com/aoikegumi>

製作協力: いしのまき 記録映画づくりを応援する会

公式サイト <https://www.ishinomakieiga-ouen.com/>